

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	愛の木放課後等デイサービス ju-sin		
○保護者評価実施期間	令和8年2月9日		～ 令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	令和8年2月9日		～ 令和8年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づく専門性の高い支援体制	半年ごとの支援会議と日々のアセスメントを通して、個々の発達段階やニーズを丁寧に把握している。支援前後のミーティングを徹底し、計画と実践の整合性を確認している。標準化ツールと行動観察を併用し、根拠ある支援を実施している。	支援の評価過程や成果をより具体的に可視化し、保護者へ分かりやすく発信する。外部研修や専門家からの助言を積極的に取り入れ、支援の質のさらなる向上を図る。
2	保護者との信頼関係と丁寧な情報共有	送迎時や連絡ノートを活用し、日々の様子や小さな変化も共有している。相談しやすい関係づくりを大切にし、面談や助言の機会を設けながら共通理解を深めている。苦情対応や相談体制も整備されている。	情報発信を一方向にならないよう工夫し、保護者参加型の意見交換の機会を設けることを検討する。家庭支援の視点を強化していく。
3	安全管理体制と組織的な業務改善	各種マニュアル整備、BCP策定、定期的な避難訓練の実施など安全管理体制が整っている。ヒヤリハット共有やPDCAサイクルを通じて、職員全体で改善を図っている。研修参加機会も確保している。	訓練や安全対策の取り組み状況を保護者へより積極的に発信する。改善事例を記録として蓄積し、組織的な学びとして共有・活用していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流・外部との関わりの機会が限定的	保護者の希望が少ないことや利用人数が少人数であることから、児童クラブや地域との交流機会が現状では限定的となっている。地域住民との交流行事も十分とは言えない状況。	保護者ニーズを改めて把握しながら実施可能な交流活動を検討する。段階的に地域とのつながりを広げる仕組みづくりも検討していく。
2	家族支援プログラムの充実	個別相談は行っているが、体系的なペアレント・トレーニングや定期的な保護者交流会は現時点では十分に実施できていない。ニーズの把握と企画立案の時間確保が課題である。	アンケート等で具体的なニーズを収集し、短時間・少人数から実施可能な講座を企画することを検討。年間計画に位置づけ、継続的な実施を目指す。
3	職員配置に対する保護者の安心感の向上	配置基準は満たしているが、保護者評価で「どちらともいえない」の回答が一定数見られた。支援体制の見える化が十分でない可能性がある。	職員体制や役割分担をより分かりやすく説明し、支援場面の具体例を伝える。支援中の様子を写真や通信等で発信し、安心感の向上につなげる。